

広報市民リポーターだより

広報創刊500号を記念して、平成元年度の広報市民リポーターに、今後広報に望むことや今感じていることなど、市民の目から見た広報について書いてもらいました。

がんばれ大館 がんばれ広報

小笠原 渉

本年度、市民リポーターとして広報作りに参加させていただきましたが、関係する方々の努力に驚かされるとともに、これだけマスコミが発達している時代とはいえ、月二回、限られた紙面で広報というのを作ることの難しさを感じさせられました。「これからの広報について」少しだけ書かせていただきます。

まず、市民全員に知ってもらいたい記事はもちろんですが、自分(たち)で好きなことに熱中し、がんばっている人(たち)なども紹介して欲しいと思います。「へえ、そういうことやってがんばってるの!」とか、「いつかよ自分も何かがんばってやってみるか」というふうな気持ちにさせてくれる人(たち)を載せて欲しいのです。次に、いろんな年齢の方々による、大館の良さを紹介した文などを載せたらおもしろい。良いところを探すのが大変になるかもしれませんが、結論的に言わせていただければ、大館もしくは大館人の、悪いところなどは他のマスコミに任せておいて、広報では良いところ、素晴らしいところという

小笠原 渉リポーター (長木川南)



のを伝えて欲しいんです。「大館はいいところだぞ!」「大館の人たちは、みんないい人ばかりなんだぞ!」といった感じでね。

もつと広報を 読んで!!

佐々木 幸子

私がリポーターになって最初にしたこと、これまでの「リポーターだより」を全部読み返したことです。どれもこれも、大変すばらしいレポートでした。その結果教えられたこと、それは、「リポーターである前に、読者であることを忘れてはならない」ということでした。文章ばかりを書くよりも、写真やカット、それにグラフなんかを使い

佐々木幸子リポーター (赤石沢)



ながら紹介したほうが、読者にとっては、わかりやすいことでしょう。それに、読者が知りたことは何かを考えてリポートすれば、おのずと内容も良くなると思ったわけです。

先日、ゴミ焼却場を見学してきました。燃えるゴミに金くずなどを入れる人がいるため、焼却炉などの設備が故障し、修理に年間八千万円の費用がかかるということでした。一部の私たちのルール違反で、私たちの納めた税金がムダに使われるかと思うと、本当に腹が立ちました。

広報には、市民が共同生活を送るために必要な様々なルールが載っています。広報をちゃんと読んで、それらのルールを知っておくことが大切ではないでしょうか。私たちの税金が、有

滝沢武雄リポーター (大滝)



効に使われるためにも。

より親しまれる 広報にするために

滝沢 武雄

新年、そして広報創刊五百号おめでとうございます。昭和二十六年八月に第一号を発刊以来、市民に親しまれる広報を目指し、努力してこられた担当の方々は、大変な苦勞をされたことと思います。心から感謝申し上げます。

さて、私なりに、広報「おおだて」について考えてみました。年々市民に親まれるように改良されてきていますので、広報に望むところは、ほとんど(九五%)ありません。しかし、より良い(残りの五%を埋める)広